

号外はインターネットの福島民報ホームページ（<https://www.minpo.jp/>）でもご覧になれます。

# 聖火ルートに大熊

# 周辺自治体も

## 原発事故の復興アピール



2020年東京五輪の聖火リレーの出発地となるJヴィレッジ＝楡葉・広野町

二〇二〇年東京五輪の聖火リレーのルートに、東日本大震災で事故を起こした東京電力福島第一原発が立地する大熊町と、原発周辺の自治体が含まれることが二十八日、分かった。

安倍晋三首相は五輪招致の際、第一原発の汚染水問題について「状況はコントロールされており、原」と発言しており、原発事故からの復興を国内外にアピールしたい考え。

大熊町は今年四月に一部地域で避難指示が解除されたが、大部分で避難指示区域が残る。周辺の自治体でも避難指示が解除された場所で聖火リレーが行われる。

大熊町に隣接し同じく第一原発が立地する双葉町は今も全域避難が継続。双葉町は一部地区で来年春の避難指示解除を目指しており、ルートに入るか調整が続いている。

政府は東京大会を震災からの「復興五輪」として位置付けている。ただ、避難指示が解除された地域でも住民の帰還が十分進んでおらず、復興進展のアピール重視で、住民が置き去りにされているとの指摘もある。

二町を含む第一原発周辺の自治体は聖火リレーの実施を政府に要請していた。

本県は四十七都道府県を巡る聖火リレーの出発地。原発事故の対応拠点として使われたサッカー施設「Jヴィレッジ」（楡葉・広野町）からスタートする。来年三月二十六（二十八日）の三日間で県内を巡った後、栃木県に移る。